

低温性輪ギク「神馬」の11～12月出し栽培法

福島県農業試験場 いわき支場

平成13～15年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 05-08-18000000

部門名 花き－キク－作型・栽培型

担当者 矢吹隆夫・諏訪理恵子

I 新技術の解説

1 要旨

本県の輪ギク生産は、夏秋期の7～10月に出荷が集中しており、それ以外の時期の出荷は少ない。このことから、出荷期の拡大を図るため、低温性品種を利用した輪ギクの電照11～12月出し栽培法を確立した。

- (1) 輪ギクの11～12月出し栽培には「神馬」が適している(表1)。
- (2) 「神馬」の無加温栽培では、電照終了から切り花盛期までの到花日数が短く、生育が揃うため切り花率が約90%と高い(表1)。
- (3) 「神馬」の加温栽培では、到花日数が60日程度であり、電照終了時期から出荷時期の予定がたてやすい(表2)。
- (4) 「神馬」は、再電照を4日以上行うことにより上位葉が揃い、切り花品質が向上する(図1)。

2 期待される効果

- (1) 品種の生育特性および電照方法が明らかになったことで、輪ギクの11～12月出荷が可能となる。
- (2) 夏秋出し作型と組み合わせることにより、輪ギクの出荷期間を拡大することができる。

3 適用範囲

施設が導入されており、夏秋出し作型と組み合わせが可能な地域。

4 普及上の留意点

最低夜温を10°C程度に保つよう温度管理を行う。

II 具体的データ等

「神馬」の11～12月出し栽培法

作型	7月	8月	9月	10月	11月	12月
11～12月出し作型 度		☆ ▽	----- —◎—×	★ #	☆-★↑	↓

▽：挿し芽 ◎：定植 ×：摘心 #：ネット張り □：収穫期間
 ☆：電照開始 ★：電照終了 ↑：加温開始 ↓：加温終了

表1 無加温電照栽培における低温性ギクの
切り花時期及び生育(2001年)

品種	切り花1)	到花	切り花	切り花	備考
	盛期	日数2)	長	率3)	
東海武蔵	12/25	69	88	38	
神馬	12/25	69	125	87	
庄善名馬	12/25	69	143	93	花弁変色
鈴鹿の道	1/4	79	88	62	
東海文明	1/15	90	101	29	
庄善の朝	1/15	90	113	60	
伊吹金峰	1/22	97	148	84	

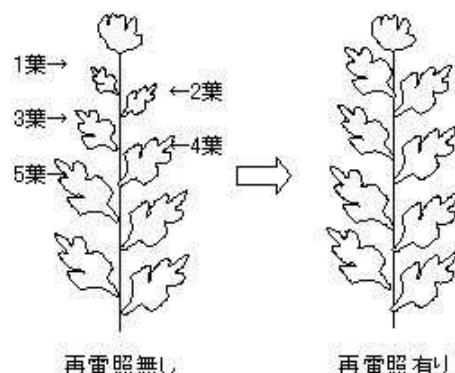
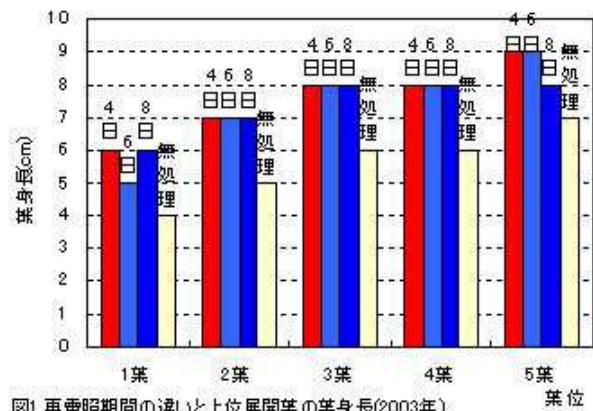
- 1)切り花盛期 50%切り花時
 2)到花日数 電照終了(10月17日)から
 切り花盛期までの日数
 3)切り花率 切り花本数/仕立て本数

表2 神馬の加温栽培における電照終了時期の違いと切り花時期および生育(2002年)

電照終了時期	切り花1)	到花2)	切り花
	盛期	日数	長
9月9日	11/1	53	65
9月19日	11/15	57	79
9月30日	11/28	59	103
10月9日	12/10	62	114
無電照	10/25	-	61

- 1)切り花盛期 50%切り花時
 2)到花日数 電照終了から
 切り花盛期までの日数
 ※ 温度管理 最低10°C

神馬は品質が良く低温開花性があり、開花調節のための電照も有効で11～12月出し栽培に適する。



神馬は4日以上再電照を行うと上位葉が伸び、切り花品質が向上する。

III その他

1 執筆者

矢吹隆夫、諏訪理恵子、宗方宏之

2 主な参考文献・資料

なし